

来たれ! 甲陽健児

ミレニアム総会開催

8月26日(土) 午前11時～ 甲子園都ホテルにて

激動の20世紀を時代とともに歩んできた甲陽学院—その甲陽学院をともに学び舎として青春時代を過ごした我ら甲陽健児。21世紀へ向けて母校の更なる発展を祈念しつつ、時代を超えて共通の思いを語り合おうではありませんか。恒例の同窓会総会を次のような要領で開催いたします。友人、知り合いお誘い合わせの上、どうぞ奮ってご参加ください。もちろん、ご家族も大歓迎です。

<第一部> 講演とパネルディスカッション

講演「歴史的視点から—21世紀の社会に向けた日本人像を考える」 国際日本文化研究センター教授
笠谷和比古氏 (49回)

パネルディスカッション

「甲陽のあの頃、次代に伝えたい甲陽」
パネラー 甲南大学教授・砂村 賢氏 (35回)
財団法人兵庫県芸術文化協会芸術文化
センター推進室副室長・小山義直氏 (36回)
鴻池運輸社長・辻 卓史氏 (42回)
笠谷和比古氏 (49回)
コーディネーター 演劇評論家・関西文学編集長
河内厚郎氏 (52回)

第一部の基調講演をお願いする笠谷氏のご専門は歴史学(武家社会論)。昭和24年神戸市に生まれ、京都大学文学部史学科を卒業。昭和53年に同大学大学院文学研究科博士課程修了、文学博士。ドイツ・チュービンゲン大学、ベルリン自由大学客員教授、中国・北京外国語学院教授、フランス・パリ大学客員教授を歴任。平成8年から現職。比較法史学会理事、史学研究会評議員も兼務される傍ら、21世紀の関西を考える会「あうろーら」編集委員も務められています。著書には、『主君「押込」の構造』(平凡社選書、サントリー学芸賞受賞)、『土(サムライ)の思想—日本型社会と個人の自立—』(岩波書店)、『「日暮硯」と改革の時代』(PHP新書)など。

<第二部> 懇親会

「恩師と語ろう、同窓会」

昨年、大好評を博しました企画をさらに充実させるべく、次の三つを柱に考えました。

1. お世話になった恩師にご参加いただき、皆さんと語り合い、懐かしい思い出を振り返りたいと考えております。
2. 本年度よりの新企画。卒業後25年、50年の方々を対象に“ホームカミングデー”を設けました。これは、多忙でお集まりになるチャンスの少ない皆様が、何らかの形でご集会になる場を提供できればと考え、企画しました。本年度は31回生と56回生が対象です。ご参加いただいた対象学年の皆様には記念品を用意しております。
3. 10人以上のグループ(学年、クラブ、同好会、その他)でご参加の場合、“特別に名札を立てたテーブル”をご用意いたします。この企画は、会員総会懇親会を一次会的な意味でご利用願えるようにということと、各学年、あるいはクラブの方がお集まりになりやすいようにという点から企画しました。もちろん、この他にも“甲陽クイズ”やみんなで歌って振り返る“甲陽学院の歌”の数々、そして美味しい甲子園都ホテルの料理とサントリービールにウイスキーも充分に用意して、お待ちしております。

甲陽だより

発行所

〒662-0096 西宮市角石町3-138

甲陽学院同窓会

発行人 平田 豊

印刷所

株式会社 小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・木・金 10:00~16:00)

FAX 0798-71-4890

甲陽ホームページ

<http://www.kabto-yama.ac.jp/koyo/>

information

日 時	平成12年8月26日(土)
	第1部 午前11時～午後0時30分
	第2部 午後0時40分～午後3時
会 場	甲子園都ホテル(TEL0798-48-1111)
会 費	一般会員 4,000円(当日会費)
	学生会員 2,000円(当日会費)
	同伴家族 2,000円(当日会費)
	新卒者(平成12年3月卒) 無 料
	1回生から26回生 無 料
	同伴子供・特別会員 無 料

申込み方法 同封の振替用紙で、8月18日までに会費をお振込み下さい。この場合は特別割引として、一般会員は3,500円、学生会員・同伴家族は1,500円とさせていただきます。会費無料の方はハガキ、電話、FAXなどで出席のご連絡を同窓会事務局までお寄せ下さい。

問 合 せ 先 甲陽学院同窓会事務局
〒662-0096 西宮市角石町3-138
TEL 0798-71-4888(月・水・木・金)
FAX 0798-71-4890
E-mail fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

※中学校、高等学校への問合せはご遠慮下さい。

会長退任のごあいさつ

高垣 雄二郎



この度、会長退任に際しまして、ひとことごあいさつ申し上げます。

顧みまするに、今から6年前、はからずも会員皆様のご推輓をいただきまして、会長に就任いたしました。1年たらずのうちに阪神大地震に遭遇し、その痛ましい犠牲になられた方に対しまして、ここに謹んで、追悼

の意を捧げたいと思います。

それからの6年間、事務局の整備をはじめとして、まず会則改正、会費徴収方法の改善、名簿の発行、80周年記念事業、『甲陽だより』の刷新、会員総会企画の改革等々手がけてまいりましたが、なかでも会務運営の中核となる事務局整備は特筆すべきでした。これすべて、役員諸氏の献身的なご協力の賜で深く感謝申し上げます。

わが母校も創立以来80有余年の輝く歴史のもと、その同窓会員老いも若きも一体となり、みんなで語り合うことのできた意義深い会員総会を昨年開催することができましたことは、会員皆様の熱情そのものでした。当日参加の皆様にとっては、今なお興奮さめやらぬものがあると思います。

「21世紀」を程なくして迎えるにあたって、同窓会としてのビジョンは、種々論議されていますが、会則第3条の目的条項には同窓会としての設立目的が、明文化されていることはご承知の通りです。

会員相互の親睦を図ることは至極当然ですが、後段には「母校の発展に寄与する」とあり、きわめて当然のこととあります。これは時代に適応し、甲陽学院独特の環境を念頭に入れて考えねばなりません。学校運営の基本的な問題については、ふれてはならない事は申すまでもありません。

さて、同窓会の母校の発展のために寄与するその役割について愚見を申し述べたいと思います。

同窓会設立に際しては、第1回卒業生の方の多大のご尽力により、今日に至ったのですが、数々残された事業のなかでも今に脈々と続けられているものとして、四者懇談会があります。これは、年一回学校設立者を含む法人理事会、学校当事者、育友会、同窓会の四者の懇談会がもたれていますが、社会情勢の急激な変遷を見ると、いまこそその対応に私共は学校当局というまでもなく、

育友会とも緊密な意志の疎通をはかりながら、母校の発展に寄与しなければならない時が、到来したように思えます。

最近、巷間、少年問題が取り沙汰されていますが、彼らの年齢は中学生高校生時代に相当し、その子女をもたれるご両親はもとより、それをあずかる学校当事者のみなさんのご苦勞は察するに余りあるといつてよいでしょう。この打開をはかることは、社会全体に負わされた責務でもある事を世の人々は認識しなければならないと思います。

私は70数年前に甲陽中学校に入学しました。その当時すべての教壇の真上には、額縁入りの甲陽十二訓が掲げられ、その訓辞は「青年期は人生無二の修養期なり」からはじまります。これは当時、教育指導を受けた校長伊賀駒吉郎先生の建学の精神でもあったと、いまさら先生のご遺徳が偲ばれ、感慨無量です。

昨今多発する少年関係事件は、現在の社会構造そのものから、探究する必要があります。他人事ではありません。

幸いにして、甲陽学院には、前述した歴史ある四者懇談会があります。改めてこの尊い建学の精神を体得して、誇り高い母校甲陽学院のためにも、世人に訴えて世に処することこそ、母校の愈の発展に、今こそ寄与する道であると信じています。

母校の発展のため、少しでもお役に立ちたいという抱負を実現できずに退任することは、いささか心残りですが、幸いにして見識高邁な平田豊氏が、この度次期会長に選任されました。私同様絶大なるご協力賜りますようお願いいたします。最後に私の任期中に賜りましたご支援とご協力にたいしまして深甚の謝意を表し、擱筆します。

なお、46回卒の船橋晴雄氏（国税庁次長 証券取引等監視委員会事務局長 歴任）がこの程、国土庁官房長に就任し、公務多忙の傍ら、3年半にわたり取材のため全国60ヶ所探訪し、この程中央公論新社より『日本経済の故郷を歩く』蓮如から龍馬へと題し（390ページ）上梓されました。ご一読ください。（15回）

20世紀から
同窓
バトン

会長就任にあたって

Face to Face

会長 平田 豊

去る3月23日の役員総会に於て、同窓会会長に選任されました。大変名誉なことではありますが、歴史と伝統のあるわが甲陽学院同窓会の会長として、このあと何が出来たかを考えるとき、身の引き締まる思いが致します。

幸い、高垣前会長の時代に、同窓会のかたちは、ほぼ完全に整ったように思います。まず事務局が充実し、それに伴って新会則が制定され、諸々の委員会

の活動が活発となりました。財政基盤も確立され、一応の安定を見るに至りました。

会報「甲陽だより」の内容も大幅に刷新され、充実して来ました。会員総会も徐々に参加者の増加を見るに至り活性化して参りました。ひとえに前会長及びそれを支えた役員の皆様の努力の賜物であり、感謝と敬意を表したいものであります。

さて、このあとは新しく誕生した執行部のもと、会員総会運営委員会、会報編集委員会の体制も整い、活発な諸活動が展開されるものと確信しております。

ただ、今更こと新しく述べるまでもありませんが、わが同窓会は単に執行部だけのものではなく、約1万5千名の同窓生全員の為のものであります。更にいえば、その基盤を為すものはわが母校であり、その母校を生み出した育英会であり、法人であることを銘記する必要があります。こういう関係者の方々の協力を得ながら同窓会の発展を考え、母校に対し如何なる貢献が出来るかを考えて参りたいと思います。

いまや、20世紀は漸く終りを告げ、新しい世紀が始まろうとしています。その21世紀は、ご承知の通り、情報の時代であるといわれています。IT革命により、われわれを取り巻く社会環境は革命的な変革を遂げるであろうと考えられます。インターネットを通じた企業間取引をはじめとして、個人の生活に於ても、バンキングや証券取引、通信販売等々、人々は居ながらにして、機械を通じて機械を相手にして自らの欲求を充足することが出来るようになります。われわれが最も関心を持つ教育のあり方にも、著しい変革がもたらされるものと思われる。

ただ、効率を追求するあまり、人間の社会生活にとって非常に大切な感情とか情緒といったものを、ないがし

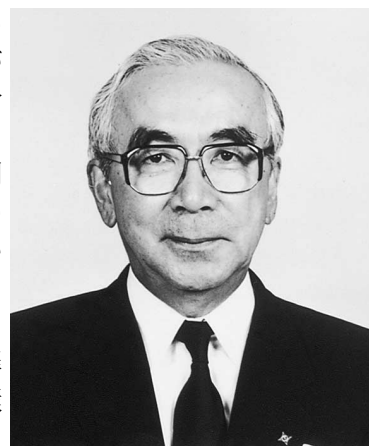
ろにしてはならないでありましょう。人と人とが肌を接し、直かに顔を合わせて意思を通じ合う、所謂、Face to Faceの関係があつてこそ、はじめて、心の通った潤いのある社会生活が期待されるのではないかと、昨今、頻発する血腥い少年犯罪等も、対話の無い家庭環境や学校生活に起因するのではないかと、IT革命と共に、われわれはその弊害についても、対策を講ずる必要があります。

われわれの同窓会についても同様です。情報網の整備と共に、お互い同窓生の消息は瞬時にして詳細に知り得る時代がやって来ます。しかし、そのような時代にあつてもわれわれにとって最も大切なものは、矢張りFace to Faceの関係でありましょう。何をおいても先ず集まること、折にふれてのクラス会は勿論、年に一回の会員総会を大切にしたい所以であります。お蔭をもって、今や甲陽の同窓生は、政官財はもとより、学術文芸等あらゆる分野で活躍していますが、その得意な分野で蓄えられた情報を、直かに交換しながら旧交を暖めることに会員総会の意義を見出したいものであります。

更にいえば、同窓会は心のやすらぎを求める場でもあります。大分以前のことがありますが、「マイウェイ」という歌が流行したことがあります。フランクシナトラが歌って、世界の人々が愛唱したといわれています。日本語の歌詞も出て、色々な場で盛んに歌われたものです。「私は私の人生を迷わずに歩いて来た積りだ。ふと立ち止まって、幾分の悔恨と喜びをもって来し方を振り返ることもあるが、このあとも、心の決めたままに信ずる道を歩んで行きたい」というのが歌の主旨ですが、それが多くの人々の共感を呼び、心を打ったのではないかと思います。

甲陽の同窓会総会も考えてみれば、そのような思いの人々の集まりでありましょう。学窓を巣立ってから、これから歩きはじめる若い人達も含めて、歩んだ道はそれぞれ別ではありますが、お互い自足の思いをもって振り返る人生でありたいものとする次第です。

21世紀に向かって、取り巻く環境が厳しくなればなるほど、ひと時の安らぎが得られる、そんな同窓会でありたいと念願するものです。皆様の絶大なご支援ご協力をお願いして、ご挨拶と致します。(22回)



21世紀へ
会長
タッチ

中村泰三校長ご勇退にあたって

——対談 中村前校長・石川現校長——

20世紀から21世紀へという世紀の変わり目にあたって、母校甲陽学院でも校長先生が交代されました。1994年から6年間校長を務められた第8代中村泰三前校長が今春ご勇退され、石川義明中学校教頭が第9代校長に就任されました。中村先生は1973年から甲陽学院で理科（生物）をご担当され、1991年より中学校教頭、1994年より校長として甲陽学院の発展に尽くされました。石川先生は1989年に甲陽学院に赴任され、担当教科は英語、1994年に中学校教頭、1995年から4年間高等学校教頭、1999年には再び中学校教頭と歴任され、本年4月より第9代校長に就任されました。このたび『甲陽だより』のために両先生にご対談をお願いしました。

なお、石川先生の後任として妙島秋男先生（国語）が中学校の教頭に就任されました。

——中村先生は27年間、甲陽学院の発展にご尽力されました。その思い出からお聞かせ下さい。

中村 私は昭和26年に大学を出まして2年間長崎の県立高校に勤めたのち、西宮の公立高校で20年間すごしました時に、甲陽からお話がありました。その時の話で、新校舎（現高校）が建つということが、私にとって大きな魅力でした。



当時は学園紛争の直後でしたが、生徒たちは朗らかで、一芸に秀でているものが多いという印象をもちました。男子校ということで戸惑うこともありましたが、授業もやりやすく、熱心に授業

を受けてくれたのが思い出されます。優秀であるとともに、人の痛みをよくわかる、思いやりのある生徒たちでありました。これぞ「甲陽生」だと今も思っています。

それからしばらくして新校舎への移転が決まりましたが、その時も、これこれのスペースで自分で自由に設計しなさいと言われ、自分の考えを尊重していただきました。まさに甲陽の自由さを感じたわけです。長い歴史のある学校であるにもかかわらず、我々のような新しい職員の意見も取り入れていただいて、本当に暖かい職場だと思いました。理科という教科でも、実験のことなどで先輩の先生方から本当によく面倒を見ていただいたことも忘れられません。古い歴史の中でたえず新しい年輪をきざむ学校だという印象をもちました。

長く高等学校に勤務しましたが、一度だけ中学から6年間学年をもちました。楽しくも、また厳しい6年間の経験でした。ある日突然に、中学校の新校舎を建てるから、と言われ、中学校で教務主任、教頭という大役を仰せつかって、新校舎建設に打ち込みました。それは49年間の教師生活の中でも、もっとも充実した日々でした。小河校長、中島教頭、上村教頭をはじめとする先生方が計画を立てられて、レールを敷かれ、それが軌道に乗る

頃に両教頭がお引きになり、その後を私がさせていただいたことも幸せなことでありました。「21世紀になっても恥ずかしくない学校造りをしたい」という思いで、中学校の新校舎をはじめとした環境整備をすることができたと思います。これも、理解のある法人、建設関係の方、そしてなにより先生方のご協力があったからで、自分は大きな幸運に恵まれた甲陽生活だったと思います。

石川 私は、中村先生が校長になられたときに教頭を命じられたのですが、その前も長く中学にいましたから、中村先生のご活躍ぶりを一番近くで見てきたことになりました。中村時代というのは、先ほどから話が出ています中学校の新校舎建設をはじめとして、甲陽の21世紀へ向けての環境整備をしていただいた時代だったと思います。われわれをとりまく環境の面でも、不況がそんなに深刻ではなく、少子化の進展もまだ軽微な段階でありました。一方、私学人気と言いますか、私学が社会的な評価を高めてきた時期でもあったと思います。そうした時期にも恵まれて、非常にすばらしい校舎ができあがりました。本当に大きな財産を残していただいたと思います。これからは、いわゆる右肩下がり、少子化が急速に進んでいきますから、私学にとっては大変厳しい時代を迎えるわけです。まさにその時期にこそ学校の真価が問われるのですが、中村時代にその基盤を整備していただいたことで、厳しい時代を乗り切っていきたいと思うわけです。

中村先生ご自身のことについては、阪神大震災のときのご活躍ぶりは、誰もが認めるところでしょう。あのような危機にあたっての即断即決、それがことごとく射たものであります。教職員や地域住民に対するきめ細かな気づかい、中村先生の思いやり、心配りが最大限に生かされた時だったと思います。



中村 小河校長が退職されるときに「甲陽生にはボランティア精神をもってほしい」とおっしゃったことを、私はたえず気にしていたのです。それをどのように生徒に伝えたらいいのか、その難しさ、もどかしさを感じていたところ、あの阪神大震災が起きました。そのとき、生徒たちは、水を運んだり、近隣へのボランティアを十分すぎるくらいにやってくれました。甲陽生は多くを語らないけれど、心にはしっかりとボランティアの精神があるのだと、うれしく感じました。先般も、モンゴルの子どもたちに衣料を送ろうという活動を生徒会がしましたが、我々が指示したわけでないのに自然とそういうことができる、これが甲陽生だと思います。

——甲陽生、法人、教職員の先生方についてどのようなことをお感じでしょうか。



石川 甲陽生の印象は、思っていたよりずっと朗らかで明るいということです。世間では、塾育ちでスレている、と誤解しているむきもあるようですが、まったくそんなことはない。とくに中学1

年生で入学してきた生徒たちを見ていると、かわいらしく、素晴らしい将来をもった、未知数の魅力にあふれています。中村先生が「明朗・潑潑・無邪気」と強調された、その通りだと思います。

中村 初代校長伊賀駒吉郎先生の時代から自然に培われた校風、「明朗・潑潑・無邪気」という言葉が自分にはとても印象が強かったのです。

ところで、本校のような法人はあまり他にはないと思います。「関心はもっているが、うるさく口は出さない」という姿勢で学校を愛してくれています。これは、昔も今も変わっていません。

次に、先生方ですが、今の時代は厳しいな、昔のように牧歌的で自由な時代ではなくなってきたな、と思います。保護者の眼、要求が厳しくなりました。先生方自身にも余裕をもっていただきたいとは思いますが、なかなか難しく、大変な時代になったなと感じています。

——難しい時代とのことです、新校長石川先生のお考えをお聞かせ下さい。

石川 校長になってから2ヶ月半ですが、大変だなという印象です。プレッシャーを感じています。これが抱負だと大上段に振りかざすのではなく、静かに状況を判断していきながら、自分なりの考えを徐々に具体的な形で出していきたいと考えています。一生懸命にやらせてもらいたいと思います。

今の私学をとりまく環境は、少子化の進展と私学志向の高まりとがクロスしている状況です。一方、学校週5日制をはじめとする教育改革論議もますます盛んです。新しいカリキュラムの編成や学校週5日制をどうするか、多くの課題を、これから先生方と考えていかなければならないのですが、それにあたっては、甲陽らしく、甲陽のよさを失わずに、「さすが甲陽だ」と言われるようなかたちで、対応していきたいと考えています。変えないところは変えない、変えるところは思い切って変えていく、ということです。

中村 私も、自分



が校長になってから自分で思ったようにさせてもらってきました。法人から何の指図も受けたことはありません。自分で決めなければならないときは自分で決めて、その結果については自分で責任をとろうと思ってやってきました。石川先生もそのようになさるのがよいと思います。いろいろな改革についても、私からは一切申し上げることはありません。甲陽学院というものは法人からの締めつけも一切ないわけです。石川先生が自由になさればいいと思います。

——最後になりましたが、同窓生や同窓会へのメッセージをお聞かせ下さい。

石川 甲陽にはよき伝統があります。在校生も同窓生も、その伝統をいたるところで感じていると思います。自分は甲陽生だったんだなあとか、甲陽の卒業生であってよかったなあとか、そういう思いを大切にしてほしいですね。そして、同窓会は学校にとっては宝物です。もっともっと素晴らしい同窓会にしていってもらったら、と思います。

中村 具体的なことから申しますと、教職員の健康管理のことですが、職員の皆さんに人間ドックに入ってもらようにしたことも、卒業生の方からのアドバイスがきっかけでした。それで4年前から人間ドックなど健康管理に力を入れ、幸い今は先生方も健康ですごしておられます。高校校医の大村先生をはじめとして多くの同窓生の皆さんに、大きな力となっていていただいています。それは一例でして、その他にも、インターネットの導入に関しても、80周年記念事業にあたっても、いろいろな面で、同窓生の方々から積極的なご助言やご協力をいただきました。大変感謝しております。

——本日はありがとうございました。

(2000年6月23日)

中高だより

2001年度 甲陽学院中学校・高等学校 募集要項

2001年度の甲陽学院中学校・高等学校の募集要項が決定しました。2001年度からは、中学校の英語と数学の時間でクラスの人数を半分に分けて授業を行うなどの「ちょっと贅沢な小さな改革」を予定しています。下の表にもありますように10月・11月には入試説明会を予定しています。事前予約等不要ですので、多くの方にご来校いただきたいと願っております。

2001年度 甲陽学院中学校・高等学校 募集要項

	中 学 校	高 等 学 校
募 集 人 員	165名 (2001年3月小学校卒業見込の男子)	45名 (2001年3月中学校卒業見込の男子)
出 願 期 間	郵送受付 2000年12月11日 ～2001年1月4日 (消印有効) 窓口受付 2001年1月5日 のみ 午前9時～午後2時	1月26日 ～2月3日 (郵送は2月3日 必着 窓口は平日:午前9時～午後4時、土曜:午前9時～午後2時)
考 査 料	20,000円	20,000円
考 査 内 容	①筆答考査 ②在籍小学校から提出の調査書審査	①筆答考査 ②在籍中学校から提出の調査書審査
考 査 内 容	1月14日 国語(55分・100点) 算数(55分・100点) 理科(55分・100点) 1月15日 国語(55分・100点) 算数(55分・100点) ◎両日とも受験生は午前8時中学校講堂集合完了 1月16日 合格者発表(午後5時・校内掲示)	2月9日 国語(70分・200点) 数学(90分・200点) 2月10日 英語(80分・200点) 理科(70分・150点) ◎両日とも受験生は午前8時30分高等学校講堂集合完了 2月11日 合格者発表(午後3時・校内掲示)
入学手続き	入学手続き時納入金を1月24日 までに銀行振込	入学手続き時納入金を2月15日 までに銀行振込
入学者登校日	1月27日 午後2時 本人と保護者	2月17日 午前10時 保護者のみ
諸 経 費 (2000年度)	入学手続き時納入金 入 学 金 200,000円 施設設備資金 230,000円 生徒会入会金 3,000円 合 計 433,000円 授業料等(年額・4期分納) 授 業 料 366,000円 教 育 充 実 費 159,000円 冷 暖 房 費 20,000円 施設設備維持管理費 60,000円 育 友 会 費 15,000円 生 徒 会 費 5,000円 合 計 625,000円 ※ 上記以外に入学手続き時の学用品購入費として70,000円、 また、経常時の野外活動・教材費等として95,000円必要です。	入学手続き時納入金 入 学 金 200,000円 施設設備資金 230,000円 生徒会入会金 2,000円 合 計 432,000円 授業料等(年額・4期分納) 授 業 料 366,000円 教 育 充 実 費 159,000円 冷 暖 房 費 20,000円 施設設備維持管理費 60,000円 育 友 会 費 15,000円 生 徒 会 費 5,500円 合 計 625,500円 ※ 上記以外に入学手続き時の学用品購入費として18,000円、 また、経常時の教材費等として81,000円必要です。
入試説明会	10月12日、14日 午後1時から 於・中学校 11月10日、11日 午前10時から 於・中学校 (いずれも見学会をかねています。開始時刻、及び会場にご注意下さい。)	10月28日 午後2時から 於・高等学校

ちょっと贅沢な小さな改革

2001年度から、中学1年の英語と中学2年の数学の授業で、一クラスを二分割する少人数制を導入します。初めて英語に出合う時と、高校の数学に出合う時に、焦点を合わせて、できるだけきめ細やかな対応を心がけていこうと思います。高校では、いままでもいろいろな科目で、生徒の希望に合わせた形での少人数制を採用してきました。一クラス全体での授業と、必要に応じた少人数制の授業によって、尚一層の効果をあげていきたいと考えています。

学校法人 辰馬育英会 甲陽学院中学校・高等学校

校 長 石 川 義 明

中高だより

甲陽学院ホームページ紹介

アドレス <http://www.koyo.ac.jp/>

甲陽学院中学校・高等学校では、広報活動の一環として学校紹介のホームページを作成しています。内容は、甲陽学院の設立趣旨、教育方針、学院沿革、中高入試情報、大学進学状況などの「堅苦しい」ページばかりではなく、高等学校の行事紹介の「すみいし便り」、クラブ活動の状況、食堂レポート、学校の日常風景「学院散策」、先生や生徒の

個人的な趣味のページ「甲陽びとさまざま」、など楽しいページも満載です。

ホームページ作成は、高校では美術の小島先生、中学校では生物の喜多先生が中心となっていますが、生徒たちの作品もあります。

以下に掲載するのは「すみいし便り」のページの一部です。

耐寒登山行われる！

2月18日に毎年恒例の耐寒登山が行われた。

当日は、晴れのち曇り一時雪が降ったりするも、学校から六甲山を越え有馬に参加者全員無事に到着した。



歩いて歩いて一軒茶屋で昼食

甲陽紳士の誕生!?

6月13日に1年生の家庭科の校外学習として甲子園都ホテルにてテーブルマナー講習会を行いました。実際のコース料理をいただきながらちょっと大人のランチって感じ！で2時間の講習を受けました。



『甲陽学院所蔵 旧「宇津保文庫」考古資料目録 土器編』刊行

甲陽学院創立80周年を記念して刊行された『甲陽学院所蔵 旧「宇津保文庫」考古資料目録 瓦編』は、近世の考古学や文化史の研究者から多大な反響があった。戦前の大阪「町人学」の伝統を引く三宅吉之助は、書画の大コレクターであったが、考古遺物にも関心をもっていた。

このたび、大阪の地下鉄御堂筋線の工事現場などで、三宅吉之助が収集した土師器を中心に、前書に未収録の瓦片を加えて、目録の続編を刊行した。目録と銘打っているが単なる図録にとどまらず、三氏が研究成果をまとめた。第Ⅰ章は、本校の校史資料室の山内英正が、三宅吉之助の文化活動を主に事績をまとめ、種々の文献資料

を紹介している。第Ⅱ章は、辰馬考古資料館学芸員の矢野健一氏が、「なにわの瓦漫遊展」(1999年6月5日～8月29日、夏季教室展)の開催記録を総括し、瓦についての考察を加えている。第Ⅲ章は、大阪文化財協会の黒田慶一氏が、三宅コレクションの土器について概要をまとめている。黒田氏は現在、大阪市内各地の発掘調査に携わっており、最新の考古学の成果を踏まえて執筆された。

本書の刊行は甲陽学院の社会的責務であり、広く学術研究に寄与するものと信じる。頒価800円(送料共1000円)、申し込みは中学校事務室。

(甲陽学院資料室長 山内英正)

中高だより

クラブ活動の状況(2)

前回に引き続き、甲陽学院のクラブの現況について部員の声を紹介します。今回は中学です。なお、原稿は昨年度(1999年度)の校報(毎年学校で発行している冊子)よりとりました。

運動系クラブ

バスケットボール部

昨年より成績がよかった。この調子でがんばって後輩にはよい成績を残してほしい。大きなけがをする人もいなく、最後まで残った3年生は多かったので、充実していました。

成 績

2月 第50回兵庫県中学校新人バスケットボール選抜優勝大会
西宮市予選 優勝

優秀選手 海野祐輔 受賞

7月 第52回西宮市総合体育大会バスケットボール大会
優勝 優秀選手 松崎裕 受賞

8月 第8回兵庫県私立中学校バスケットボール大会
第3位 優秀選手 坂本雄介 受賞

甲関戦：○甲陽 47－24 関学×

	前 半	後 半	計
甲 陽	28	19	47
関 学	3	21	24

通算：16勝20敗

サッカー部

コーチが6月頃に急に変わり、この時期になり1からのスタートになってしまった。チームの雰囲気もあって、五私学の頃にやっとチーム戦術が完成されて満足のいく成績が残せた。

成 績

11月 5私学大会 2位

甲関戦：×甲陽 1－11 関学○

通算：6勝38敗3分

陸上競技部

甲関戦では関学の半分以下の部員数(9人)で大健闘といえる15点をとった。ここ3、4年で1番良い結果が残せ、満足だ。これからは基礎運動能力を高めていきたいと思う。

成 績

甲関戦：×甲陽 15－33 関学○

通算：5勝42敗

バレーボール部

今年の3年生は、少ないながらも全員で力を合わせて、結構強くなりました。1、2年生は近年まれに見る大人数。来年にも期待が持てます。頑張れ！ペガサス甲陽！

成 績

11月 5私学大会 準優勝

甲関戦：○甲陽 2－1 関学×

	第1	第2	第3	計
甲 陽	6	17	15	2
関 学	15	16	8	1

通算：23勝18敗

野 球 部

個人的にレベルの高かった昨年度の先輩、八私学大会準優勝の前途洋々たる2年生に挟まれ、この学年はあまりいいことがなかった。来年度以降の更なるレベルアップに期待。

成 績

甲関戦：×甲陽 0－9 関学○

	1	2	3	4	5	6	7	計
甲陽	0	0	0	0	0	0	0	0
関学	1	1	0	7	0	0	×	9

通算：16勝27敗4分

水 泳 部

今年は、表立った成績もあまりなく、甲関戦にも敗れてしまったけど、3学年全員が自分たちの力を出し切ってよくがんばったと思う。充実した一年間だと、胸を張って言える年だった。

成 績

甲関戦：×甲陽 14－42 関学○

通算：9勝31敗

剣 道 部

練習不足が少し目立ったが、試合前には集中して練習することができたように思う。実績も阪神大会に進出することができ充実した一年であった。来年は更なる技術の向上を期待している。

成 績

西宮市中学新人大会 3位

三校定期戦 優勝

甲関戦：○甲陽 1－1 関学×

(本数 甲陽 2－1 関学)

通算：6勝2敗

柴 田 医 院

院長 柴田 始宏 (38回)

〒662-0977 西宮市神楽町5番4号
TEL (0798) 22-1060 FAX (0798) 23-8528

大西神経内科医院

院長 大西 俊和 (44回)

〒662-0975 西宮市市庭町4-26
TEL (0798) 22-1668 FAX (0798) 36-7572
E-mail : onishi-clinic@nishinomiya-med.or.jp

卓 球 部

“黄金時代”である。今年は2年生が、エースの亀谷君を軸に公式戦で優秀な成績を残した。3年生も甲関戦では岩野君の活躍もあり、自分たちのポイントで相手を上回り、勝利を収めた。

成 績

4月 市内大会 3位 2回
男子団体戦上級の部

11月 市内大会 男子団体 上級の部 3位
上級の2部 準優勝
下級の部 優勝

11月 市内大会 男子個人 上級の部 亀谷 優勝2回
下級の部 吉川 3位

甲関戦：○甲陽 5－4 関学×

通算：21勝26敗

テ ニ ス 部

3年間テニス部一同は良い環境の中でテニスを精いっぱい楽しむことができました。あまり良い結果は残せませんでした。一生懸命、ほぼ毎日練習していたのでとても満足しています。

成 績

甲関戦：×甲陽 1－6 関学○

通算：28勝16敗

文化系クラブ**物 理 部**

ほとんど存在感のなかったような部が認識されるようになってきました。部員のやる気も上がってきています。まじめな部長を中心とした来年の活動に期待しています。

音楽と展覧の会 (11月3日) で発表

化 学 部

下級生が頑張ってくれたおかげで、化学部の音展は素晴らしい成功を収めました。一時は部の存亡も危なかったのですが、本当に良かったです。次もこの調子で行きたいのですが。

音楽と展覧の会 (11月3日) で発表

生 物 部

今年はキノコの培養、マウスの電気ショック、植物の感情、サボテンの再生、アルテミアの飼育、ダンゴムシ、

尿素等の実験を行い音展で発表しました。また、夏休みの串本の合宿も続けています。部員も多く、日々の活動も熱心に行っています。

音楽と展覧の会 (11月3日) で発表

音 楽 部

今年は音展活動ができなかったものの音展明けは顧問の松井先生による個人レッスンが始まり充実した活動ができました。来年こそは4倍に増えた部員の力を合わせて頑張ります。

音楽と展覧の会 (11月3日) で発表

天 文 部

活動は楽です。兼部可能です。というか活動は長期休暇中の天体観測と音展への会場設置だけだからです。また、路線は部員しだい!! さあ、天文部に入部しましょう。入りなさい。入れ～。

音楽と展覧の会 (11月3日) で発表

社会部Ⅱ (鉄研)

栄光の時を越え衰退を迎える。今日が終わるから明日がある。ミレニアムに始まる新しい鉄道研究部に未来を描くのも、思い出の駅までの切符を買うのもすべてはあなたに始まります。

音楽と展覧の会 (11月3日) で発表

学 報 部

一応文化部である学報部は大会とか入賞とかという言葉には微塵も縁なく一年間やりたいことをやってきました。たぶん発行回数はかなり多い方だったと思います。来年の活躍に乞う御期待。

音楽と展覧の会 (11月3日) で発表

将 棋 部

今年も、部員同士の強力な団結があったので、非常に充実した一年だった。また、音展でも予想以上の輝かしい成果だった。来年も強力部長のもとで奮起してくれるだろう。

音楽と展覧の会 (11月3日) で発表

救急・労災指定

ヒトラ外科病院

院長 人羅 俊雄 (45回)
人羅 俊明 (73回)

〒661-0974 尼崎市若王寺3-14-30 (阪急園田駅南)
TEL (06) 6493-2400(代) FAX (06) 6493-2539

吉江胃腸科外科

院長 吉江 哲郎 (46回)

〒664-0861 伊丹市稲野町1-111
TEL (0727) 75-1176 FAX (0727) 75-1258

中高だより

退 任 の 先 生

今春、池田辰彦先生と鈴木満子先生のお二人の先生が退職されました。池田先生は、1993年より7年間、国語を担当され、特に今春卒業した81回生は、学年主任としてご指導をいただきました。鈴木先生は、1996年より4年間、中学校の養護教諭として勤められ、怪我をしたときや気分が悪くなったときに、お世話いただきました。

ご退職にあたり、お二人の先生から『甲陽だより』にご寄稿いただきましたので、ここに掲載いたします。

伸びゆく若木とともに

池田 辰彦



平成5年4月から七年間、甲陽学院に勤めさせていただき、本当に有難うございました。身体不調もあり、元気なうちに済ませておきたい身近な仕事もあり、本年3月をもって退職させていただきました。

6月初旬、陋宅に森口先生がお見えになり、完成したばかりの81回生の卒業記念アルバムを届けて下さいました。私事です、先生とは私の甲陽学院在職の七年間、各部・学年の全てをご一緒し、いわば、私の甲陽生活を導き支えて下さった方であり、誠に有難くまた恐縮に存じました。

さっそくアルバムをひらくと、お世話になった諸先生のお顔、山麓の気あふれる学び舎、聡明で個性的だった生徒諸君一人ひとりの表情が鮮やかに浮かんできました。今井章文君がアルバム委員を買って出て、皆が一斉に拍手をしたその響きまで聞こえてくるようです。

平成5年から学院に勤めさせていただいた私は、次の年から中学1年生・81回生の担任となり、以後六年間、若木とともに歩む任をいただきました。中高一貫の男子教育は初めての経験であり、新鮮で手応えのある毎日の学校生活でした。しかし、八十年の伝統の甲陽教育の懐は非常に奥深く、思い返せば、経験豊かな先生方にお教えをたまわらばかりであったことを反省致しております。

平成7年1月の阪神大震災は、伸びゆく若木たちにも容赦なく襲いかかり、前途有為な奥野正弘君とご両親の命を奪うなど、多大な爪あとを残しました。有延梓君が、「まだ見える仮設の中の洗濯物この目にじっと焼きつけておく」と詠んだ、あの苦しくつらかった時代、中村校長が先頭に立たれて、学院全体が一丸となって乗り越えていったことは、貴重な体験として今も彷彿としてきます。

ご指導ご鞭撻たまわった諸先生には、いつまでもお元気で活躍なさいますよう、そして、甲陽教育の理想がいっそう実現されますよう、心よりお祈り申し上げます。

暖かくご支援をたまわった保護者の皆様、本当に有難うございました。ご子弟のご雄飛を私も心から希求申し上げます。

さまざまな目標へと凛々しく巣立っていった81回生の諸君、私の方が学ばせていただきました。いっそうご精進の上、自らの目ざす大樹となって行って下さい。

「六甲おろし」

鈴木 満子



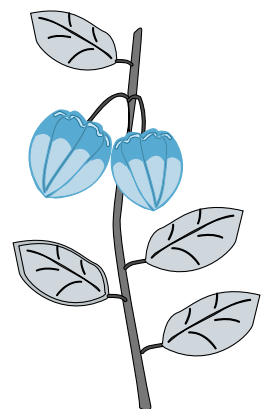
風に乗って、近くの高校のチャイムが聞こえてきます。つい時計に目が行き、なにがしかの用事を作ってはやって来る生徒達で賑わった、休憩時間の保健室が懐かしくなり、いろいろな思い出が脳裏をよぎります。

憧れの甲陽生になったばかりの、幼い1年生の夏合宿。2年生の応援団長を中心に、本番に強い甲陽生の本領を遺憾なく発揮して、感動的なエールを交換してくれた甲関戦。初日はスキー靴に苦闘していた生徒も、最終日には雪を蹴って滑降してきた3年生のスキー合宿。中でも、彼等の巣立ちに、一職員として立ち会うことができた高校卒業式の感慨は格別のものがありました。老眼鏡越しで顔は定かではありませんでしたが、就職初年度必死で覚えた名前の一人一人の前途を、幸多かれと見送りました。

四年間という短い期間ではありましたが、このように大きな喜びをいただけたことを深く感謝しております。

今、ひとつの心残りがあります。それは、過日歓送迎会をしていただいた時、四年前、社長様をはじめ錚々たるメンバーが会場を沸かせてくださった「六甲おろし」の合唱をリクエストしそびれてしまったことです。失礼をお許しいただきたいのですが、その時私は、学院関係者の皆様に少年の面影というよりも少年そのものを見たおもいがして、甲陽学院の生きた「校是」に触れた思いでした。

以来、すっかり甲陽のファンになった私ですが、これからは元職員であったことを誇りに、ファンのひとりであり続けたいと思っております。ありがとうございます。



会 務 報 告

＊平成11年度（11年4月～12年3月）の会務報告を申し上げます。

1 統 括

この1年間の同窓会活動は、大きくいえば新しい世紀を目前にして、同窓会の存在意義とは何か、同窓会として歩むべき方向は、更に同窓会活動や運営は従来の踏襲だけでよいのか。では、その同窓会の改革とは何をなすべきなのか。その問いかけと見直しに終始したかと思います。何かに迫りかけられるように、その道筋を間違わないように、その模索と前向きに生まれ変わろうとする苦しみの1年でもありました。

何故に、そのように改革を求めるのか。従来の同窓会活動でよいのではないかとの、皆様の疑問もあるかと思います。我々が先ず考えなければならないことは、時代は急速に新しい改革を求めて、IT革命に見られるように急速に進展しています。単に前例の踏襲という同窓会活動では、時代の大きな転換に取り残され、同窓生の同窓会離れ・無関心さへの道をたどり、同窓会は消え去るのみといわれかねません。また、同窓会是一部の人の為に存在するのではなく、母校から巣立った同窓生全員のものであり、**全員が参加できる開かれた同窓会**でなくてはと考えます。更に母校の発展と共に歩む同窓会でなくてはならない。そうですから11年度のスローガンも「**母校と共に歩む甲陽学院同窓会**」とし、この旗印の下に同窓生の結集をはかり、同窓会の活性化への前向きの諸活動を推進してきました。

この1年間に頂戴しました皆様方の声も、何をするにしても今までの前例の踏襲ではないか。これで時代の急速な進展に即応することが出来るのか。誰でも参加したくなる、親しみの持てる開かれた同窓会を考えろ。事勿れ主義ではなく、批判を恐れず新時代を見据えて、魅力ある同窓会づくりに邁進せよ。新時代の同窓生が多く巣立ってきた。より多くの同窓生の意見を聞け。卒業した年次・現在の年齢によって、同窓会・母校への接し方・感じ方・考え方に温度があることを認識せよ。新世紀に向かって同窓会が進むべき道・方向を示せ。など、今までにない多くの厳しい意見・要望などが寄せ

られています。つまり、新時代に即応した活性化された同窓会への脱皮を強く求められました。

これらのことを念頭に置き、この2年間は会務の改善（日常業務にパソコンの導入・同窓生全員の名簿の入力・会費納入状況の正確な把握等）。赤字財政から脱却すべく諸施策の実施。会報「甲陽だより」の刷新。また総会・諸会議の持ち方の改善と内容の充実。それに伴う若手層の発掘と起用を行い、特に諸会議における討議の新鮮さと多様化を期待しました。そして、これらの事を積極的に行うことにより、新世紀に向って翔く基盤作りが出来たかと自負しています。

これら諸施策の実施に当たっては、各委員会からの答申・提言を纏め、常務理事会・理事会・役員総会で論議し、その了解・承認を得まして、諸施策の実施と会務の改善に努力を傾注してきました。これらは、云うは易く行うに難しい問題ばかりでありました。特に、財政の改革は、現在では数学の上では健全化されたかに見えますが、その内実は新年度の早い時期に、財政の見通しについて再度の論議を行い、新施策の確立と実行を必要としています。12年度の同窓会活動は、同窓会の将来を左右する、まさに正念場であるといわざるを得ません。

21世紀に向かっての同窓会の活性化・改革は、短期間で達成できるものではありません。この2年を振り返っても、決して満足の出来るものではありません。その反省をしっかりと踏まえて、新年度の活動に生かしたいと考えています。しかし、少しずつではありますが、前進していることもご理解頂ければと思います。同窓会も新時代を見据えて真剣且つ活発に、その目的意識を持って動ける素地が出来上りました。これらは、役員並びに関係各位の深いご理解と熱意あるご協力の賜ものであり、ここに感謝と御礼を申し上げます。

2 平成11年度の活動状況について

① 平成11年度・会員総会について。

この報告は、会報・第61号にて行いましたので、概略のみ申し上げます。

参加人員は例年の100名前後を大きく上回り、205名と倍増を致しました。これは視聴覚機器を取り入れ、全員参加の形態をとった企画が、時宜を得たものであったからとの評価を得ております。

参加人員の倍増は、関係委員の努力もさることながら、インターネットを通しての諸々の呼び掛けの効果も見過す事は出来ません。年々に甲陽のEメールへの参加者も増え、その効用は大きく、今後の研究・推進すべき課題であります。

この会員総会に対する参加者の反響も大きく、殆どの方が今回の催しには興奮した、良い企画だ、母校への思いがつのった、来年も期待している、とのお言葉を頂きました。

② 各委員会・諸会議等の活動状況について。

＊平成11年度・会員総会 [11. 8. 28. 開催]

＊平成11年度・理事会 [11. 11. 30. 開催]

＊常務理事会 [4回開催]

＊会報編集委員会 [7回開催. 小委員会・5回開催]

＊会員総会運営委員会 [4回開催. 小委員会・2回開催]

＊平成11年度・四者懇談会 [11. 12. 10. 開催]

＊平成11年度・会計監査 [12. 3. 17. 実施]

＊平成11年度・役員総会 [12. 3. 23. 開催]

＊会報「甲陽だより」の発行

[第60号・11. 7. 26. 第61号12. 2. 23. 発行]

各委員会の委員には、出来る限り幅広い層から、また新風を期待して若手層からも起用するよう配慮しました。これにより新鮮な意見と多様な知恵を吸い上げる事が出来ました。

3 平成11年度・決算について

＊決算の数字につきましては、末尾に掲載しています決算書の通りであります。

＊収入の部では、10年度の会費収入は**8,421千円**に対して、11年度は**22,864千円**と大幅な伸びになりました。他の収入と合計しますと**24,725千円**と、同窓会が発足して以来の最高の実績をあげることが出来ました。

この画期的な伸びにつきましては、後述の**同窓会財政の展望**の中で述べたいと思います。

4 平成12年度の予算について

＊予算の数字につきましては、末尾に掲載の予算書の通りであります。この決算書・予算とも役員総会の承認を得ました。

＊12年度の予算の編成にあたり、特に意をつくしたことは、前年以上の経費の節減と会務の合理化を図ること。そして新世紀に向かって同窓会の活性化に繋がるよう、目的意識をもって行いました。その一つにIT革命に対応できるよう、パソコンの能力・容量アップを図り、新機種の購入を計画し、これは同窓会活動に新機軸を生み出すものと期待致します。

◇ 年会費・終身会費の納付状況表(平成7年～平成12年) ◇

	H7年	H8年	H9年	H10年	H11年	H12年
総収入	4,852,500	4,851,000	5,683,470	8,431,000	22,864,500	4,587,744
(年会費)	2,812,500	2,781,000	3,684,100	2602件 5,472,000	1882件 4,974,500	472件 879,744
(終身会費)				85件 899,000	868件 15,840,000	160件 3,780,000
(新卒者)	1,428,000	1,449,000	1,400,000	1,442,000	1,435,000	0
(入会金)	612,000	621,000	599,370	618,000	615,000	0

(単位:円)

[註] : H12年は5月末までの数字です。: H9年までの年会費は終身会費が含まれています。

5 基本金について

＊11年度は決算書のとおり、剰余金が**22,493千円**と同窓会財政に余裕ができましたので、この内**10,000千円**を基本金に、**500千円**を特別積立金(寄付金対象)に、そして**11,993千円**を、12年度への繰越金に計上しました。基本金は、財政の逼迫により過去数年にわたり取崩し、赤字補填に充当してきまして、昨年は**12,950千円(9口)**と減少していました。今回の新規積立により、基本金の確保に大変なご苦勞をされました諸先輩に対して、少しばかり顔向けが出来るようになりました。**[現在は22,950千円(10口)]**。この2年間で、赤字財政を克服して10,000千円を基本金に組み入れるということは画期的な事で、並大抵のことで出来るものではありません。ご尽力を賜りました同窓生の皆様に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

6 同窓会財政の展望

①11年度末で、手持ちの現預金残高が**11,993千円**と、初めて大台を確保しました。これを持って同窓会財政は安泰とは決して考えていません。逆に2・3年後はどうかと不安に苛まれています。今まで何度も申し上げてきましたが、この現象はあくまでも一過性のもので、来年度以降もこれだけの金額が確保出来るかといえば、過去からの会費納入状況の推移からも、年会費・終身会費の納付金額・件数の差異からみても、早く2年後には大きな壁にぶち当たるものと推測しています。

②その理由を更に分析しますと、特に11年は終身会費の額が**15,840千円(868件)**と高額になっています。その内容は、過去に年会費を毎年により真面目に納入されていた方々の大半が、新終身会費制度の実施に伴い、終身会費の納付に切り替えられています。という事は、終身会費

の納付は今回これ1回限りのもので、以後の会費納付義務はありません。このことは年会費の納付者が毎年減少し、年間の必要経費に不足が生じ、再び基本金を取崩して赤字補填に充当せざるを得ない事態に直面し、再び赤字財政に突入しかねません。

③その一つの現れが、年会費の納付件数と金額の減少傾向にあります。それを補うのが新終身会費制ではなかったかといわれるかも知れません。この終身会費制で11年度の規模を維持出来るのは、良くて2年と推測しています。以後はかつての年会費納付の減少傾向よりも、もっと激減の方向に進むものと予測せざるを得ません。このことは、同窓生の総数にも限界があり、同様に終身会費の総額にも限界があり、その限界を基点として考えれば、明白な事実かと思えます。

④ここに財政の抜本的な改革と、財源確保の道を模索しなければならない要因があります。10年度の会務運営委員会からの答申(財政の見直し・年会費の増額・終身会費設定金額の改訂・新卒者から卒業時に終身会費の徴収等)について、その検討と解決を、本年度に新設される会務運営委員会で討議し結論を出さなければなりません。

⑤更に申し上げたい事は、会費の未納者に対して納付への努力とお願いをする事も大切です。しかし、もっと重要な事は如何にすれば未納者に対して、進んで会費を納付して頂けるかであります。これは、同窓会を「**魅力のある・誰でも喜びをもって参加できる開かれた同窓会**」に成長させることこそが、会費の納付促進に繋がる大きな命題と考えます。これの実行が、無難な前例の踏襲に終始し、将来を見据えない現状維持型の同窓会から脱却する一つの方策と考えます。改革を進めるには、当然に批判も非難もあろうかと思えます。この声には謙虚に耳を傾け、議論を重ねてより良き方向へ向きたいと願っています。皆様のご理解をお願い申し上げます。

7 新終身会費制度の特例について

*会報61号にも掲載しましたが、終身会費制度の金額設定は12年度末までの特例であります。この間の金額設定は別表のとおりであります。この金額設定には、終身会費の納付促進の為に、相当のメリットを付加しています。13年度からの年会費の増額と、これに伴う終身会費の金額設定の増額改訂を考えれば、メリットの大きいこの機会に、より多くの方に終身会費制度を活用をして頂きたくお願い申し上げます。

8 支部の結成促進について

*本年度の活動方針に、支部の結成促進と育成は、同窓会活動の大きな柱の一つである。支部の結成とその発展は、同窓会本体の充実と発展につながる原動力ではないか。更に全国各地域・同業種・企業内・同好会等に支部の結成を呼びかける活動をしたい。世界各地で活躍されている同窓生に、その地での支部の結成を訴えたい。との方向を打ち出しました。

*そして、同窓会事務局で出来る協力（宛名ラベルの作成・通信費の負担など）を検討したい。支部の結成は直ぐに出来るものではない。地道な準備が必要であり、長い目で見た協力体制を築き上げたいとし、その構想を纏めつつあります。

*皆様のご理解とご協力を得たく存じます。

専務理事 有田和男 (31回)

◇ 終身会費・各回別納付金額設定表 ◇

回 生	金 額	回 生	金 額	回 生	金 額
1回	10,000	31回	10,000	61回	23,500
2回	10,000	32回	10,000	62回	24,000
3回	10,000	33回	10,000	63回	24,500
4回	10,000	34回	10,000	64回	25,000
5回	10,000	35回	10,500	65回	25,500
6回	10,000	36回	11,000	66回	26,000
7回	10,000	37回	11,500	67回	26,500
8回	10,000	38回	12,000	68回	27,000
9回	10,000	39回	12,500	69回	27,500
10回	10,000	40回	13,000	70回	28,000
11回	10,000	41回	13,500	71回	28,500
12回	10,000	42回	14,000	72回	29,000
13回	10,000	43回	14,500	73回	29,500
14回	10,000	44回	15,000	74回	30,000
15回	10,000	45回	15,500	75回	30,000
16回	10,000	46回	16,000	76回	30,000
17回	10,000	47回	16,500	77回	30,000
18回	10,000	48回	17,000	78回	30,000
19回	10,000	49回	17,500	79回	30,000
20回	10,000	50回	18,000	80回	30,000
21回	10,000	51回	18,500		
22回	10,000	52回	19,000	高商・1	10,000
23回	10,000	53回	19,500	高商・2	10,000
24回	10,000	54回	20,000	高商・3	10,000
25回	10,000	55回	20,500	高商・4	10,000
26回	10,000	56回	21,000	機械・1	10,000
27回	10,000	57回	21,500	機械・2	10,000
28回	10,000	58回	22,000	造船・1	10,000
29回	10,000	59回	22,500	造船・2	10,000
30回	10,000	60回	23,000	工業・1	10,000

(単位：円)

平成11年度・決算書

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	決 算 額	予 算 額	差 引 額	科 目	決 算 額	予 算 額	差 引 額
会 費	22,864,500	11,000,000	11,864,500	人 件 費	1,967,680	1,970,000	△2,320
※年 会 費	4,974,500	1,500,000	3,474,500	※月 手 当	1,440,000	1,440,000	0
※終 身 会 費	15,840,000	7,500,000	8,340,000	※夏 冬 手 当	250,000	250,000	0
※新卒入会金	615,000	600,000	15,000	※通 勤 費	277,680	280,000	△2,320
※新卒年会費	1,435,000	1,400,000	35,000				
				交 通 費	9,160	100,000	△90,840
名簿収入	661,000	100,000	561,000				
				需 要 費	741,418	850,000	△108,582
広告収入	200,000	200,000	0	※通 信 費	486,830	500,000	△13,170
				※事務用消耗品費	65,630	150,000	△84,370
総会会費収入	473,000	0	473,000	※備 品 費	188,958	200,000	△11,042
雑 収 入	650	0	650	会 議 費	2,367,136	1,900,000	467,136
				※会員総会費	1,082,655	500,000	582,655
利子収入	26,013	20,000	6,013	※役員総会費	290,430	300,000	△9,570
				※理 事 会 費	299,092	300,000	△908
寄 付 金	500,000	0	500,000	※委 員 会 費	403,662	500,000	△96,338
				※懇 談 会 費	291,297	300,000	△8,703
基本金解約	0	0	0				
				事 業 費	2,995,773	4,350,000	△1,354,227
収入小計	24,725,163	11,320,000	13,405,163	※甲陽だより	716,730	1,600,000	△883,270
				※郵 送 料	1,323,661	1,600,000	△276,339
繰 越 金	6,295,423	6,295,423	0	※振替用紙代	123,480	300,000	△176,520
				※封 筒 代	128,205	200,000	△71,795
収入合計	31,020,586	17,615,423	13,405,163	※宛名ラベル代	0	0	0
				※記念品代	703,697	650,000	53,697
※基 本 金 9口 12,950,000円							
[内 訳]				雑 費	446,288	620,000	△173,712
*定額郵便貯金 1,000,000円				※校 内 志	40,000	50,000	△10,000
* " 3,000,000円				※慶弔その他	60,823	220,000	△159,177
*東洋信託(貸付信託) 1,000,000円				※振 替 料	189,150	150,000	39,150
*三菱信託(貸付信託) 1,350,000円				※その他雑経費	156,315	200,000	△43,685
* " 1,600,000円							
* " 1,320,000円				支 出 合 計	8,527,455	9,790,000	△1,262,545
* " 1,480,000円							
*池田銀行(スーパー定期) 1,200,000円				予 備 費	0	7,825,423	△7,825,423
* " 1,000,000円				基本金組入れ	10,000,000	0	10,000,000
◎新規基本金・積立金 組入れ				特別積立金	500,000	0	500,000
*三和銀行(定期預金) 10,000,000円				次年度繰越し	11,993,131		11,993,131
*三和銀行(普通預金) 500,000円							
				支 出 合 計	31,020,586	17,615,423	13,405,163

平成12年度・予算書

【収入の部】				【支出の部】			
科 目	12年度	前 年 度	差 引 額	科 目	12年度	前 年 度	差 引 額
会 費	11,000,000	11,000,000	0	人 件 費	2,060,000	1,970,000	90,000
※年 会 費	1,500,000	1,500,000	0	※月 手 当	1,500,000	1,440,000	60,000
※終 身 会 費	7,500,000	7,500,000	0	※夏 冬 手 当	280,000	250,000	30,000
※新卒入会金	600,000	600,000	0	※通 勤 費	280,000	280,000	0
※新卒年会費	1,400,000	1,400,000	0				
				交 通 費	100,000	100,000	0
名 簿 収 入	60,000	100,000	△40,000				
				需 要 費	1,350,000	850,000	500,000
広 告 収 入	200,000	200,000	0	※通 信 費	600,000	500,000	100,000
				※事務用消耗品費	150,000	150,000	0
総会会費収入	500,000	0	500,000	※備 品 費	600,000	200,000	400,000
雑 収 入	0	0	0	会 議 費	2,800,000	1,900,000	900,000
				※会員総会費	1,200,000	500,000	700,000
利 子 収 入	20,000	20,000	0	※役員総会費	300,000	300,000	0
				※理 事 会 費	300,000	300,000	0
寄 付 金	0	0	0	※委 員 会 費	700,000	500,000	200,000
				※懇 談 会 費	300,000	300,000	0
基本金解約	0	0	0				
				事 業 費	3,650,000	4,350,000	△700,000
前年度繰越金	11,993,131	6,295,423	5,697,708	※甲陽だより	1,200,000	1,600,000	△400,000
				※郵 送 料	1,400,000	1,600,000	△200,000
				※振替用紙代	200,000	300,000	△100,000
収 入 合 計	23,773,131	17,615,423	6,157,708	※封 筒 代	200,000	200,000	0
				※記念品代	650,000	650,000	0
				雑 費	520,000	620,000	△100,000
				※校 内 志	50,000	50,000	0
				※慶 弔 費	100,000	220,000	△120,000
				※振 替 料	170,000	150,000	20,000
				※雑 経 費	200,000	200,000	0
				小 計	10,480,000	9,790,000	690,000
				予 備 費	13,293,131	7,825,423	5,467,708
				支 出 合 計	23,773,131	17,615,423	6,157,708

(単位：円)

会員だより

25回 天文会



桜のピンク、木々の緑、素晴らしい天候に恵まれた4月23日、梅田の阪急白楽天にて、天文会の集いを開催しました。

1年ぶりに元気な顔を見て、和やかに酒を酌み交わし、思い出に話が弾みました。

出席者一人一人の近況報告と、今後の過ごし方を披露する中で、話は全員共通して健康でありたいの、一言にまとまりました。

自己の体験の中で得た食事療法や運動方法に、お互いに参考になるものが沢山ありました。又70年も過ごせたことに感謝し、何か社会に貢献したい希望を皆が持っていることを確認しました。

終りに校歌を声高らかに合唱して、来年の再会を誓い、盛会のうちに終了しました。

天文会の会員は、連絡の取れる人が24名です。

平成5年より毎年4月に開催しておりますが、出席できる人達で、毎回10名以上で賑やかにやっております。

平成5年、吉田君、平成8年、永田君が、甲陽だよりに掲載してくれましたが2人とも残念乍ら故人となり、投稿も途絶えてしまいました。今回の会合では是非投稿するようにとの要望にて、筆をとりました。

当日の出席者は、

後列 森山、村上誠、加賀見、大芦、畑中、嘉治井、波々伯部

前列 谷元、加藤、新見、有山、小松 以上12名
(嘉治井、波々伯部 記)

36回 学年同窓会

毎年開催してます学年同窓会を、本年は5月13日 新阪急ホテル花の間（大阪梅田）にて、ご来賓に甲陽学院中学校・高等学校校長の石川義明先生をお招きし、同窓生27名と共に行いました。

石川校長より母校の現状・教育理念等について、同窓生の原納優氏（今春まで国立循環器病センター内科部長・現在甲子園大学栄養学部教授）より体に優しい生活習慣についての特別トークを、又出席者全員には近況報告をお願いしました。

現役の方、リタイアされて第二の人生を歩んでおられる方々々々ですので、スピーチもバラエティーに富んだも

のでした。

最後には、校歌・応援歌を合唱し盛会のうちに21時に閉会しました。

ホテル内での場所を変えての有志による二次会も20名が参加し、22時過ぎまで続きました。

翌5月14日のジャパンメモリアルGCでの有志によるゴルフコンペには9名が参加し、手入れの行き届いた広々としたコースでの一日を楽しみました。

優勝は山下房雄氏でした。

(角野記)

幹事 原納・角野・中川

剣友会



平成十二年五月六日、往年の甲陽中学校剣友会を甲子園都ホテルに於て開催した。昨年は甲子園球場前の「灘五郷」に集まったが、本年は趣きをかえ同ホテルで初めに朝倉元三郎会長(15)の死去に伴い、新しく丸山喬一郎氏(19)が全員の賛同をもって選ばれ、氏は「会長と呼ばれる人間ではないが、ハードな戦前、戦中の時代、部員の友愛によって培われた精神を我等の生きている限り残したい。」と挨拶。その後、自己紹介。酒宴に入る。

まるで剣道の掛り稽古よろしく激しい気迫がみち、活気のありすぎる雰囲気であった。年は経て、時代は変わっても、こころの青春と謳歌。来年の再会を約し解散した。

写真は左より武田正巳、河村郁夫、原田達也、大芦民男、洲崎辰三、丸山喬一郎、井上寿良、中島久、大内隆、西尾勉、小松英一



会員総会にあわせて学年同窓会やクラブOB会を!!

会員総会を盛会にするためにも、当日学年同窓会やクラブのOB会をご計画下さい。今年度は次の企画です。

第29回・第31回有田和男

卒業50周年の記念同期会を秋に計画していましたが、このたびの会員総会の企画に、卒業50年を迎えた学年に“ホームカミングデー”として同期生が集う場を特別に設けていただけることになりました。多数の参加で同期の結束を誇りたいと思います。詳細は例年通り書翰にて。

第51回田辺一也

卒業30周年の学年会を総会にひきつづき、午後5時から行います。ふるってご参加下さい。

サッカー部OB会OB会会長 殿村和洋 (24回)

2年振りにサッカー部OB会を開催します。万障お繰り合わせの上、ご出席下さるようお願いします。

8月26日(土)午後3時より甲子園都ホテル鳴尾西の間にて同窓会会員総会に引き続き行います。会費2000円。(総会でしっかり食べて下さい。茶話程度になる予定)

告 知 板

◇「会報・甲陽だより」の原稿募集◇

＊次号（63号）は、来年2月10日に発行の予定です。原稿として、母校に関連した思い出話・俳句・短歌・詩・同窓生の人物紹介などを寄稿下さい。

＊特に、21世紀を展望して「同窓会の在り方・方向」、また「会報」・「会員総会」・「同窓会活動」などについての提案・提言などをお待ちしています。

＊更に、「会員だより」・「クラブ・OB会の活動状況」・「各支部結成の動向」・「職場の甲陽会の動き」・「甲陽趣味の会」・「海外在住の同窓生の活動状況」などの投稿を歓迎します。

＊会報は皆様の情報誌です、奮ってご活用下さい。

※原稿は、事務局までお寄せ下さい。締切日は来年の「1月10日」までとさせていただきます。

◇住所変更のお願い◇

＊毎回・会報の発行に際しまして、約200通近い住所不明者が発生しています。事務局で極力調査を行い再発送をしていますが、事務局の調査にも限界があります。転居される時には、必ず事務局まで住所変更の通知をお願い申し上げます。

◇「甲子園都ホテル」◇

優待券の期限延長について

＊同ホテルの「宿泊」と「飲食」の優待券を、会報60号に同封しまして、同窓生の皆様にお届け致しました。その優待券の有効期限が2000年3月31日とありますが、同優待券を2001年3月31日まで延長させていただきます。

＊まだ利用されていない方は、そのままご利用して下さい。また優待券を既に利用されてお持ちでない方は、ご面倒でも事務局までご連絡を頂ければ、お手許まで送付をさせていただきます。

◇ご注意！会員名簿の購入依頼◇

相変わらず、甲陽学院同窓会を名乗り、名簿を出版するとの名目で、同窓生諸氏の自宅・勤務先に問い合わせの怪電話が往復ハガキがあるようです。これらは、同窓会・学校とも全く関係がありませんので、慎重に対処されるようお願いを申し上げます。

同窓会としての会員名簿は、創立85周年を記念しまして、2002年に発行の予定で、その検討と準備に入っています。同窓生諸氏へのご連絡は、その出所等を明確にし、連絡・返信先も母校にあります同窓会事務局と致します。ご注意ください。

◇各回理事・評議員の方々へ◇

関西から遠くに転勤・転居されて、「理事会・役員総会」へのご出席が難しくなられた方がおられます。理事・評議員は同窓会の運営上、重要な責務を担われています。理事・評議員は会則上、執行部から指名することができず、各回正会員から適宜の方法で選出していただかねばなりません。

どうか、各回でご検討いただき、理事会・役員総会に出席していただける方をご選出下さいますようお願い申し上げます。

計 報

左記会員の逝去の報に接しました。
謹んで哀悼の意を表します。

（平成12年6月19日現在）

藪内	清氏	(2回)	(旧姓・山村)	00年6月2日逝去
曾根	義一氏	(4回)		
櫻尾	茂氏	(4回)	(旧姓・藤井)	98年3月1日逝去
藤井	亀一氏	(4回)		98年2月11日逝去
中西	剛六氏	(5回)		99年7月30日逝去
中嶋	万蔵氏	(5回)		99年10月13日逝去
大山	一彦氏	(6回)		99年4月6日逝去
米谷	正義氏	(6回)		98年3月19日逝去
熊倉	健二氏	(7回)		99年9月6日逝去
玉木	宏氏	(7回)		99年11月1日逝去
谷本亥歳生氏		(8回)		99年12月30日逝去
安田	正造氏	(9回)	(旧姓・柴田)	98年10月2日逝去
菅原嘉三郎氏		(9回)		93年11月24日逝去
伊藤泰太郎氏		(11回)		00年5月16日逝去
田澤	利夫氏	(11回)		00年5月29日逝去
岩井	清氏	(15回)		00年2月28日逝去
飛田	謹一氏	(15回)		99年8月26日逝去
戸島	健治氏	(16回)		00年1月31日逝去
大出	行雄氏	(18回)		98年9月18日逝去
竹内	省三氏	(18回)		99年7月21日逝去
高島	敏男氏	(24回)		96年12月30日逝去
福寿	孝二氏	(28回)		98年4月13日逝去
友瀧	雄多氏	(33回)		00年5月15日逝去
藤田	徳之氏	(35回)		99年7月26日逝去
武村	嘉治氏	(高商1)		99年9月27日逝去
萬屋健次郎氏	(高商4)			00年3月21日逝去

☆ 母校の校歌・応援歌(2) ☆

前号に引き続き、懐かしい母校の大正後期の頃に歌われた歌詞を掲載致します。これは母校の貴重な歴史の記録でもあります。次号は、昭和の前期までを掲載します。

8. 野球団優勝の歌[大正12年] —第9回兵庫大会— (栗山 正則氏 作歌選曲)

- | | |
|---------------------------|------------|
| 一、わが甲陽に育ちたる | 健児の集へる野球団 |
| 五年関せるそのかみの | 惨風凄雨誰が知る |
| 二、恨をのんで戈をさめ | 断觴淋きいくとせを |
| たゆまず鍛え甲斐ありて | 優勝旗はわれにあり |
| 三、戦止みて松林の | 薫風颯々吹くなかに |
| 優勝の旗はひらめきて | 憩へる選手に涙あり |
| 四、旗と花輪に飾られて | 帰り来りし選手等よ |
| 校庭にはかにいづめきて | 歌聲あげしを君知るや |
| 五、名に負う敵も何かある | いまは五戦五勝して |
| 兵庫県の選手なり | 甲陽健児の意気見せん |
| (フレ甲陽 フレー甲陽 フレーフレーフレー...) | |

9. 栄光の旗[大正12年] —第9回全国大会— (栗山 正則氏 作歌) (坂田多太郎氏 作曲)

- | | |
|---------------|------------|
| 一、宿年の覇業けふ成りて | ときはの栄黙示せる |
| 緑いやこき松林は | 歓呼の聲は流れたり |
| 二、勝者の上に栄光あれ | この言書かれし大旗の |
| 目を射る金絲燦然と | 雌伏二年の甲斐ありき |
| 三、うららに陽映えて甲山は | 姿もさやか微笑めり |
| 「栄光の旗われにあり | 栄光の旗われにあり」 |

10. 応援歌(其の五)[大正12年] (橋本 清吉氏 作歌選曲)

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 一、恨みをのんで地にひそむ | この断觴の月と日を |
| 今勝たずんばいつの日か | いかで覇家権を握るべき |
| 二、あゝ陰惨のこの月日 | 男児の涙あるならば |
| 友よ自由を如何にせん | 栄ある歴史如何にせん |
| (フレ甲陽 フレー甲陽 フレーフレーフレー...) | |

11. ハイザイ[大正12年] (藤尾 斌氏 選作)

我が××のためにハイザー.....
 アインス ツワイ ドウライ! ナン アインマール
 ハイザー甲陽 ハイザー甲陽 レーベ ホッホー
 (拍手.....)

12. フウレイイ[大正15年] (栗山 正則氏 選作)

(ワン ツー スリー!) (ワンス モーア!)
 フウレイイ.....××××
 フウレイイ.....××××
 ペップペップペップ××××××××

13. 甲陽健男児[大正15年] (貴志 保行君 作歌) (栗山 正則氏 選曲)

- | | |
|--------------------|-----------|
| 一、北に六甲秀嶺を | 南に清き茅渚の海 |
| 心のまゝに眺めつゝ | 自由に励む甲陽の |
| 學舎につとむ健男児 | 振え甲陽健男児 |
| 二、高きみ空に輝きて | 希望に満照る星光の |
| 神秘のひかり若人よ | 瞬くひかり路導 |
| 進取にもゆる健男児 | 振るへ甲陽健男児 |
| 三、大海の浪荒れくとも | 暗雲いかに迫るとも |
| 義の矛取りて勇しく | 甲陽精進真向に |
| 翳してすゝむ健男児 | 振るへ甲陽健男児 |
| (ラ甲陽 ラ甲陽 ラララ.....) | |

14. 蹴球團歌(其の1)[大正13年] (世良 亮一氏 作歌) (坂田多太郎氏 作曲)

- | | |
|----------|-------------|
| 一、六甲の山は | 大地を踏まへて立てり |
| そのゆるぎなき | 脚の雄力 |
| 武庫の流れは | 海に向って走れり |
| その矢の如き | 脚のす捷さ |
| 是ぞ我が甲陽 | 男児の姿 |
| 二、蹴れや蹴れや | 九天に冲するまで |
| 敵の頭超え | ゴール目がけて |
| 我が脚はこれ | きたへし鐵のあし |
| 我が體はこれ | 力の泉 |
| 甲陽の男児に | 誰かは抗する |
| 三、やおれわが敵 | たとひいかに強くとも |
| 斃せ滅ぼせ | 葬り去れや |
| それ戦捷は | 最後の五分にあり |
| 今ぞ今ぞ | 心ゆるぶな |
| 振へや戦へや | ベスト盡して |
| 四、よしそれ我に | 抜山の力あるも |
| 時利あらねば | しばし潜め |
| されどされど | 天力あらを捨てず |
| やがて蚊龍 | 雲雨を捲かん |
| 時は来るべし | 今来るべし |
| 五、見よや見よや | 最後の勝利こそは |
| ああそれ遂に | 我に歸したり |
| かちどきあげよ | 山河もゆるぐばかりなり |
| 萬歳々々 | 萬々歳 |
| 甲陽の健児 | 意気ぞ高き |
| 六、夫れ君見ずや | 六甲山の動ぜぬを |
| 勝ちて誇るは | 勇者にあらず |
| また君見ずや | 武庫川の水のさまを |
| ひくとき就くを | 忘るゝ忽れ |
| 甲陽萬歳 | 萬々歳 |

*歌詞については、濱口博章氏(21回)から提供を受けました、小冊子の原文に忠実に記載しました。

*波江野亮平氏(32回)から、藪重臣先生が作詞の「甲陽修連歌」と、別にもう一曲がある筈だとの問い合わせがありました。ご存じの方は事務局までお知らせ下さい。



※ご入会のみならずには様々な特典もご用意しております。
 ※法人会員も受け付けております。

上質の空間でリラグゼーション

フィットネスクラブ

日頃の緊張から心身ともに解き放ちお寛ぎいただけることを目的に、充実の施設とお客様ひとりひとりのプログラム&カウンセリングを行う会員制クラブです。

入会金 \1,500,000
 保証金 \1,500,000
 年会費 \240,000

お問い合わせ「フィットネスクラブ」係まで
TEL.0798・48・1111(代表)

甲子園都ホテル

〒663-8166 西宮市甲子園高潮町3-30(阪神甲子園駅西口前)
 TEL.0798・48・1111 FAX.0798・48・5111